

# 健康のひろば

地元の医師がアドバイス

-2-

子供(九歳)が微熱、せきやたんが出て心配。知人の話ですと「胸の痛みや血たんがあると心配?」と言われまし。結核菌に侵される人も多しとか。

(風連・主婦)

明治から昭和二十年代まで「国民病」「亡国病」と恐れられた結核。しかし医療や生活水準の向上により完治可能な時代になりましたが、過去の病気ではあり

ません。現在も一年間に患者が約三万人、死亡患者は二千人

人もおり、世界の中で日本は中蔓延国とされています。依然として主要な感染症なのです。

一九九七―一九九九年にかけて一時期増加傾向を示し、当時の厚生省は「結核緊急事態宣言」を出し、予防・治療対策を行った結果、この数年は再び減少してきています。

一方、①高齢者患者の割合が増加②都市部での発生集中③学校、医療機関での集団発生④耐性結核菌の出現⑤重症発病の増加とエイズでの複合感染などが問題

となつています。でも必要以上に心配はく無用です。

結核は感染しても発症しない人が九割で、発症する一割のうちすぐに発症するのは三分の一、三分の二は一端休眠してから発症するので

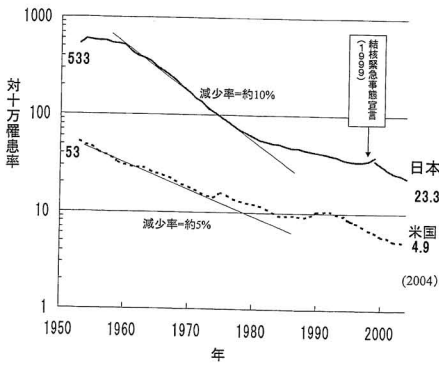
結核の初期症状は風邪によく似ています。咳や痰、微熱などが二週間以上続く場合は胸部X線検査は必至です。発見の遅れはその後の治療や周囲の関係者も巻き込みます。

今回のご質問の場合、九歳のお子さんですが、すでにBCG接種は終了されていると思います。最近七口歳―十四歳の結核罹患率はかなり

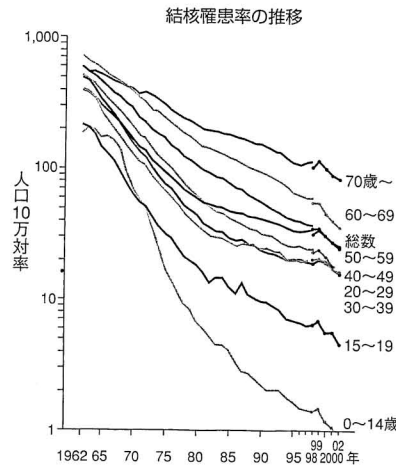
低値で推移しています。結核の可能性は低いと思います。むしろ一般の急性上気道炎、急性気管支炎が考えられます。胸痛の場合は肋膜炎の病変進展時は問題ですが、咳による筋肉

痛のことが多く、血痰は結核以外でもよく遭遇する症状です。まず、近所の医療機関を受診して下さい。

(医療法人・岡崎内科医院院長・岡崎望)



結核罹患率の推移(日米比較)(1953~2004年)



結核予防会、結核の統計2003. 及び2005

財団法人結核予防会、東京：2003, 2005

微熱やせき、たんが続く